

令和4年 市政10大ニュース

順位	項目	説明
1	新型コロナウイルス感染症への切れ目ない対応（1月～12月）	<p>一昨年から市民生活に甚大な影響を及ぼしている新型コロナウイルス感染症への様々な対応を継続してきました。昨年に引き続き、麒麟のまち圏域6町と連携してワクチン接種事業に取り組むなど、ワクチン接種の推進を図りました。また、8月の全国的な感染拡大（第7波）においては、新規陽性者が1日500人を超え、全庁を挙げて対応にあたりるとともに、鳥取県をはじめ東部4町との連携、関係医療機関の協力を得て、適切な医療の提供に努めました。さらに、9月には鳥取市陽性者コンタクトセンターを鳥取県とともに全国に先駆けて設置するなど、持続可能な体制の構築に取り組みました。</p>
2	全市域で超高速光インターネットが利用可能に～DXの推進基盤を整備！～（3月）	<p>市民が超高速インターネットサービスを利用できるよう、鹿野町や青谷町の西地域、用瀬町や佐治町の南地域などを中心とする未整備エリアに光ファイバーケーブルによる超高速情報通信網を整備しました。これにより、全市の情報格差の解消が図られ、新型コロナウイルス感染予防対策として行うリモート授業、テレワーク、Web会議等がスムーズに行えるようになりました。超高速情報通信網を活用し、子どもから高齢者まで全ての市民がデジタル化の恩恵を受けることができる「一人ひとりにやさしいデジタル化」の実現にむけて、産業、観光、農業、教育、福祉などの分野で、「地域社会のDX」と「行政のDX」の推進が期待されます。</p>
3	鳥取市・姫路市姉妹都市提携から50周年を迎える（4月～11月）	<p>鳥取市と姫路市は、城主を池田家が務めたことから、昭和47年に姉妹都市提携を行い、本年で50周年を迎えました。これを記念して、中学生同士の交歓会、傘踊り連の相互訪問等の毎年の交流の他、両市イベントでの物産ブース相互出展や民藝企画展の開催など、記念事業を実施しました。また、両市長が相互に訪問し、特別名誉市民称号の贈呈や市長対談等を行い、さらなる友好の深化と100周年を見据えた交流の継続を改めて確認しました。また、3月12日には中国横断自動車道姫路鳥取線が全線開通し、両市間のアクセス向上による観光、経済、防災面など一層の交流・連携促進が期待されます。</p>

令和4年 市政10大ニュース

順位	項 目	説 明
4	「住みたい田舎」ベストランキング10年連続でトップ10入り（1月）	「2022年版住みたい田舎ベストランキング（宝島社『田舎暮らしの本』2月号）」の若者世代・単身者が住みたいまち部門で8位、シニア世代が住みたいまち部門で10位を受賞し、10年連続でトップ10入りを果たしました。 また、「子育て部門が住みたいまち」部門で12位を受賞し、全3部門で上位にランキングされる結果となりました。 コロナ禍におけるオンラインを活用した移住相談対応や各種助成制度の充実、地域おこし協力隊の受け入れなどが評価されました。
5	鳥取市議会 さらに開かれた議会に（9月、11月）	9月定例会からケーブルテレビ映像に手話、インターネット映像に字幕、また、議会傍聴席のモニターに字幕表示を本格導入し、障がい者等に配慮した議会中継がはじまりました。本格導入前の2月と6月定例会では、導入効果と実施体制を確認するための試行を行いました。なお、11月には、任期満了に伴う市議会議員選挙が行われ、現職24名、新人8名が当選し、12月定例会より新体制の市議会がスタートしました。
6	鳥取砂丘 さらに魅力あるエリアへ（1月～12月）	鳥取砂丘の貴重な自然・景観を保全し、それらを活用した鳥取砂丘全体の観光振興と活性化を目指し、県と連携して取組みを進める協約を昨年12月に締結しました。 砂丘西側エリアの滞在環境の上質化に向けて、サイクリングターミナル、柳茶屋キャンプ場、こどもの国キャンプ場を一体的に整備し、民間サービスの提供によるキャンプ・グランピング施設へリニューアルするための公募型プロポーザルの実施や旧砂丘荘跡地等へのリゾートホテルの誘致（開業は令和6年春の予定）等に取り組みました。また、5月には飲食の提供、観光情報発信、ワーケーションにも利用できる「SAND BOX TOTTORI」が開業し、7月には鳥取砂丘砂の美術館第14期展示が約2年ぶりに開館するなど、鳥取砂丘のさらなる魅力アップが進みました。
7	きめ細かな防災情報発信を実現！「鳥取市防災アプリ」の運用開始（6月）	スマートフォンの急速な普及などデジタル化する時代に対応できる新たな緊急情報伝達手段として、スマートフォン向け防災用アプリケーション「鳥取市防災アプリ」を公開しました。緊急情報の発出時に防災行政無線と自動連携して文字と音声でお知らせする機能をはじめ、言語は8か国語に対応するなど、情報取得困難者への的確な情報発信能力を強化しました。また、ハザードマップを閲覧できる防災地図機能、拡張現実（AR）技術を利用した災害体験AR機能や平時の防災学習の機能を搭載しており、各家庭での事前対策や自主防災組織等の活動に活用していただくことで市民の防災意識の向上を図ります。

令和4年 市政10大ニュース

順位	項目	説明
8	青谷かみじち史跡公園整備進む（1月～12月）	<p>県と共同し、「地下の弥生博物館」とも呼ばれる青谷上寺地遺跡の史跡公園整備を進めています。令和5年秋には、ガイダンス棟と重要文化財棟からなる展示ガイダンス施設が先行オープンし、令和11年度には、水田や畑、高床倉庫など当時の自然景観をイメージする環境を設けた「弥生の自然景観体感地区」が完成し、公園全体がグランドオープンする予定です。</p> <p>青谷地域では、地元飲食店が青谷上寺地遺跡にちなんだメニューの開発を行い、史跡公園の取組を盛り上げるほか、11月の史跡公園オープン1年前を記念したイベントは、多くの来場者でにぎわうなど機運が高まっています。</p>
9	新可燃物処理施設「リンピアいなば」本稼働延期（5月）	<p>新可燃物処理施設「リンピアいなば」（河原町山手地内）の建設工事が令和4年3月末に概ね完了し、同年4月1日から県東部圏域1市4町（鳥取市、岩美町、智頭町、若桜町、八頭町）の可燃ごみを全量受け入れて試運転を開始しました。当初は8月1日から本稼働を予定していましたが、発電用ボイラに水漏れが生じたことから、修繕のため可燃ごみの受け入れを一時停止し、本稼働を令和5年4月に延期しました。修繕期間の6月6日から12月31日の間の可燃ごみの受け入れは、神谷清掃工場を再稼働して対応し、令和5年1月4日からはリンピアいなばで試運転を行い、可燃ごみの受け入れを開始する予定です。</p>
10	第4期鳥取市中心市街地活性化基本計画策定 検討はじまる（7月）	<p>長年市民に愛され、中心市街地のシンボルの一つであった鳥取大丸が丸由百貨店として開店され、史跡鳥取城跡では、ライトアップ事業が行われるなど、中心市街地の様相が変化する中、第4期鳥取市中心市街地活性化基本計画の策定を進めています。中心市街地の活性化を目指すこの計画は、市役所旧本庁舎跡地の利活用や鳥取城跡周辺整備など、中心市街地での新たな課題や変化に対応するために重要なものであり、検討委員会や市民政策コメントなどの市民意見を踏まえながら策定し、令和5年4月からこの計画に基づくまちづくりがスタートします。</p>